

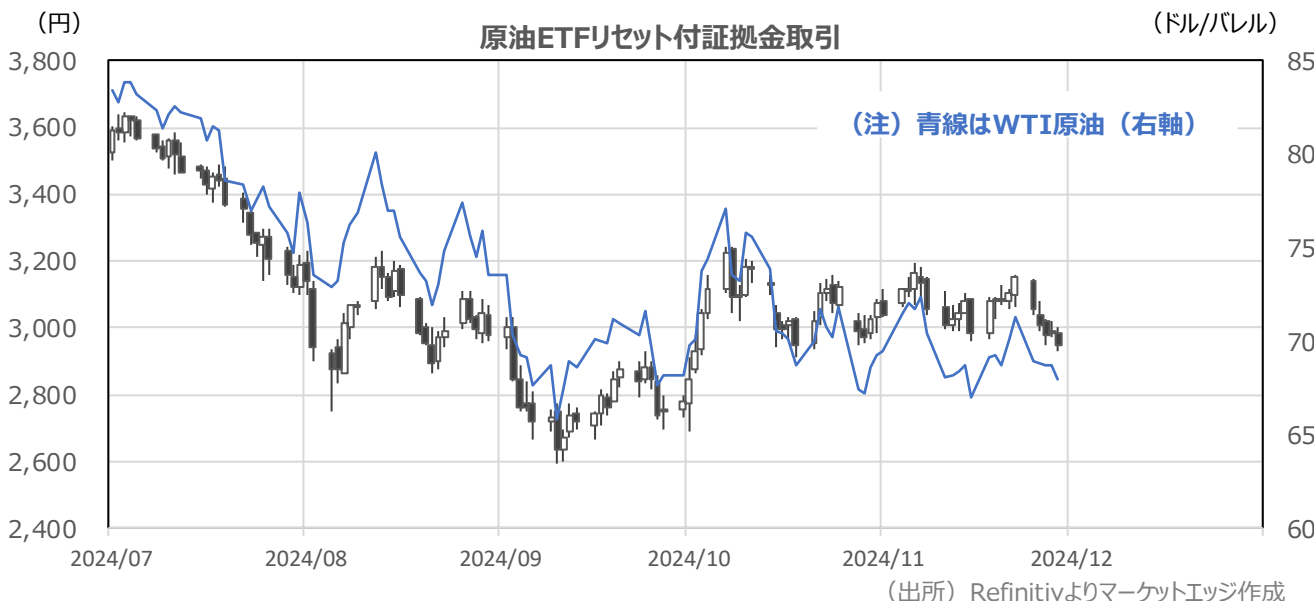
原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2024/12/02号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



イスラエルとレバノン停戦合意で70ドル割れ

NY原油先物相場は、1バレル=71ドル台中盤で上値を抑えられ、68ドル水準まで下落する展開になった。11月下旬に入ってからウクライナとロシアの戦闘が激化し、ロシア産の供給不安を背景に70ドル台を回復する展開になっていた。しかし、ロシア産石油供給に大きな混乱は見られず、戻りを売られる展開になった。また、イスラエルとレバノンの停戦合意が実現したこともネガティブ。中東情勢が安定化に向かうのかは不透明感も強いが、緊張緩和につながる可能性がある動きとして原油相場を押し下げた。

イスラエルとレバノンの武装組織ヒズボラとの間で激しい戦闘が続いていたが、11月26日に停戦合意が実現し、27日から発効した。イスラエル軍は60日以内にレバノンから撤退し、レバノン南部ではヒズボラからレバノン正規軍に置き換えが進むことになる。その後もイスラエル軍はレバノンで攻撃を続けるなど停戦合意が履行されるのか不透明感もあるが、中東で原油供給障害が発生するリスクを軽減する動きとして、原油相場は下押しされている。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（11月22日時点）は、原油が前週比184万バレル減、ガソリンが331万バレル増、石油精製品が42万バレル増となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

地政学リスク残るも、需給緩和の戻り売り続く

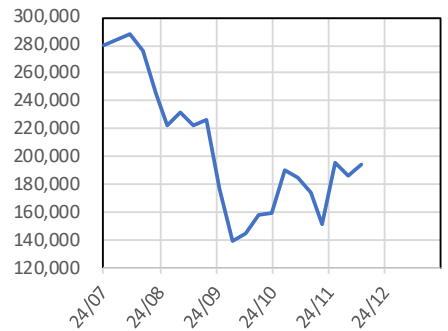
改めて需給緩和見通しの売り圧力が強まりやすい。突発的な供給障害の発生がなければ、年初来安値に迫る可能性も十分にある。「地政学リスクの買い」と「原油需給緩和見通しの売り」が交錯しているが、イスラエルとレバノンの停戦合意が実現し、マーケットの関心は地政学リスクから需給緩和見通しへのシフトを進める可能性が高くなっている。ボックス相場の下限を意識した展開になろう。

イスラエルとレバノンの停戦合意が実現し、中東の地政学リスク緩和が進むか否かが焦点になる。停戦合意が早期に破たんに向かうようであれば、70ドル台前半まで反発するリスクは残される。また、イランのウラン濃縮活動が活発化しており、欧米とイランとの対立がエスカレートしていくと、イラン産原油の供給不安を織り込む必要性も高まる。対イラン強硬派のトランプ米次期政権の就任を前に、イラン政府の警戒感が高まっている。また、ウクライナの攻撃によってロシア産原油・石油製品供給に混乱が生じるリスクもまだ排除できていない。しかし、地政学リスクに起因した供給障害が発生しないのであれば、需給緩和見通しの戻り売り優勢の地合いが維持されよう。

石油輸出国機構（OPEC）プラスは12月1日に予定されていた閣僚級会合の開催を5日に延期した。湾岸協力会議

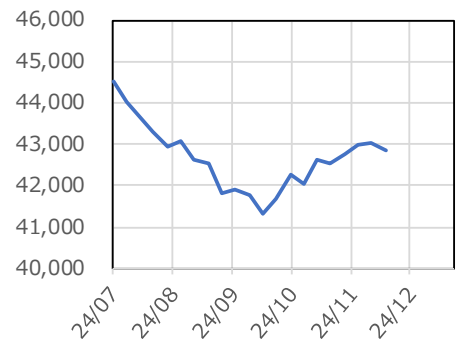
（GCC）首脳会議と日程が重なった影響とされている。今会合では、減産縮小計画を更に先送りし、来年1～3月期も生産調整を行わない案などを軸に協議が行われる見通し。ただし、OPECプラスは既に二度にわたって減産縮小計画を先送りしており、原油相場に対する影響は限定されよう。OPECプラスの減産縮小延期を前提にしても、国際原油需給が供給超過に向かう見通しに変化は生じない。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



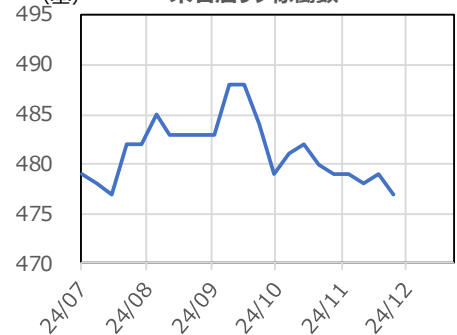
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

